Face of きくがわ No. 60

お

育まれていることがわかったそうです。塚

ここ数年、市内のイベントでよく見かけるようになった「竹灯籠」。 竹灯籠づくりの中心メンバーである塚本さんは、なんと 内閣総理大臣表彰歴を持つ「スゴイ人」なんです。その経 歴と現在も地域づくりに励む想いを紹介します。





本さんは、「花には人 をより多くの人に知っ てくれる力があること の心を明るく優しくし てほしいです」と活動

の想いを話しました。

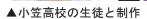
四季折々の花を植え続け、患者さんや来院 た塚本さん。今年は3年生とヒマワリの種 くの人に癒しと元気を届けたいと思い活動 季節を感じられる花で、患者さんをはじめ多 春は菜の花、夏はヒマワリ、秋はコスモスと 者に癒しと交流の場を届けてきました(1)。 寄せられ、花を育てることで思いやりの心も るくなった」や「優しくなれる」などの声が 業前後の気持ちの変化を聞くと「気持ちが明 を蒔きました(2)。児童にアンケートで作 を始めました」と活動のきっかけを話します。 は四季を感じる機会が少なくなってしまう。 臣賞」を受賞しました。塚本さんは「病院で 成27年に「緑化推進運動功労者内閣総理大 示したことも功績として高く評価され、平 さらに、景観美化だけでなく環境への効果を 小学校で児童と一緒に花畑づくりを始め 御前崎市立総合病院を退職後、地元の小笠

の屋上テラス(約1200 いた御前崎市立総合病院 本さんは、当時勤めて 診療放射線技師である)に、10年以上にわたり

竹灯籠の灯りで地域を照らす

を楽しんでみませ に月と美しい灯籠 塚本さん。秋の夜長 れしいです」と話す

地域に貢献できたなと感じます。菊川市の『観 や、従来のイベントを彩る灯りになった時に も磨かれました。今では、「きくがわ灯りの散 場を紹介してもらう機会が増え、その度技術 ネットで調べ、見よう見まねで始めました。 化につながればう ただき、地域の活性 光資源』として市内外の多くの人に知って て日本の文化を伝え交流を広げています。 制作しながら放置竹林の課題を伝え続ける す。また学校に出向き子どもたちと竹灯籠を 依頼を受けるまでに活動の幅を広げていま 歩道」をはじめ市内はもちろん、市外からも それでも地道に作り続けているうちに、飾る を立ち上げ活動を始めました。最初は知識も 文化創出を目的に「たねあかり」という団体 技術も無い中、一人で竹灯籠づくりに挑戦 3)ほか、外国籍の子どもたちに制作を通じ 竹灯籠が新しい企画を生み出すきっかけ



今年も開催、竹灯籠が灯す秋の夜

くがわ灯りの散歩道ONハロウ

ぜひ、仮装をしてハロウィーンの夜をお楽しみください。 詳細はホームページ(右記)をご覧ください。

日時 10月25日(土)午後5時~7時30分 ※雨天翌日延期

くる広場、プラザきくる

NPO法人アートコラールきくがわ(☎090-3935-1610)





ていく講座です。そこで放置竹林の問題に気 付いた塚本さんは、課題の周知啓発と新たな 氏が主体となってまちづくりに取り組み、菊 木来塾」に参加した塚本さん。この講座は市 の魅力を高める企画を考え、行動につなげ 定年後、「地域に貢献したい」との思いから